

HAMAMATSU MUSEUM OF MUSICAL INSTRUMENTS

浜松市楽器博物館

コレクションシリーズCD



Hamamatsu Museum of Musical Instruments

2013年9月現在

このCDは、浜松が発信する最高の贈り物。

楽器の町・浜松は世界に誇る鍵盤楽器の町でもある。このCDシリーズでもクラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノ、リードオルガンといった鍵盤楽器が大勢をしめているが、どの一点を取り上げても響きの豊かさ、音色の美しさ、そして演奏者の息遣いや表情まで髣髴させる情感に満ちた名演に心打たれるものとなっている。

浜松市楽器博物館のさまざまなコンサートやワークショップ、そしてレクチャーはシンフォニーホールでは決して得ることのできない音楽の醍醐味や神秘を味あわせてくれる。そうした感動を追体験させてくれるCDシリーズは浜松が発信する最高の贈り物でもある。

平野 昭(慶應義塾大学教授・音楽学)

3 チェンバロ ～珠玉のバロック小品集～

チェンバロ、スピネット、ヴァージナル。楽器博物館所蔵の16世紀～18世紀オリジナル楽器6台によるフランス、イギリス、イタリアの真珠のようなバロック音楽小品集。

演奏：中野振一郎

使用楽器：チェンバロ F.E.ブランシェ2世 1765年 パリ/チェンバロ F.マルキオニ 1646年 フィレンツェ/チェンバロ J.カークマン 1750年 ロンドン/チェンバロ A&J.カークマン 1791年 ロンドン/ヴァージナル F.ロッシ 1597年 ミラノ/スピネット S.キーン 18世紀初期 ロンドン

収録曲：調子の良い鍛冶屋 (G.F.ヘンデル) / 葦 (F.クーブラン) / 組曲「クリオ」 八長調より プレリュード (J.F.フィッシャー) / タンブーラン (J.N.P.ロワイエ) / アンダンテ (J.C.バッハ) / アレグロ (T.A.アーン) / 組曲ト長調 (H.パーセル) / 神秘的バリケード (F.クーブラン) / アンダンテ 八長調 (B.ガルツピ) / 三美神 (J.デュフリ) / 恋のうぐいす (F.クーブラン) / 2つのガリアルダ (G.フレスコバルディ) / イングリッシュ・トイ (J.ブル) 他全22曲



LMCD-1783

4 フォルテピアノ

19世紀前半のピアノは、なんと個性に満ちていたことだろう。博物館所蔵の名器6台による音の色香を楽しむ、美しく艶やかなアルバム。

■収録作品の中でも異色なのは、ペートーヴェンの創作主題「トルコ行進曲」の主題による6つの変奏曲。この作品の演奏で使われているウィーン式アクションのフリッツには、フアゴットペダルという独特のペダルや、鐘や響板を叩く太鼓という、現在のピアノでは「あり得ない」メカニズムが内蔵されている。その楽器が奏でるトルコ行進曲は、「打楽器付きピアノ」って有りなのかという価値観を越えて、素直に愉しい。(ぶらあぼ)

演奏：小倉貴久子

使用楽器：A.ワルター & サン 1810年 ウィーン / J.フリッツ 1808年 ウィーン / 伝A.シュトライヒャー 1815年頃 ウィーン / 伝C.グラフ 1820年 ウィーン / J.プロードウッド & サン 1802年頃 ロンドン / J.ブレイエル 1830年 パリ

収録曲：即興曲 変イ短調 作品90-4 (F.シューベルト) / 3つのイギリスソナタ集よりクラヴィアソナタ 変ホ長調 第1楽章 (J.ハイドン) / 即興曲 変ロ長調 作品(選作) 142-3 (F.シューベルト) / ノクターン 八短調 (J.フォルド) / ノクターン 変ホ長調 作品9-2 (F.ショパン) / 春のうた (F.メンデルスゾーン) / トルコ行進曲の主題による6つの変奏曲 (L.v.ベートーヴェン) / クラヴィアソナタ「熱情」より 第1楽章 (L.v.ベートーヴェン) / エリーゼのために (L.v.ベートーヴェン) 他全10曲



LMCD-1784

5 クリストフォリ・ピアノ

1700年頃イタリアのフィレンツェでクリストフォリによって発明されたピアノ。メトロポリタン美術館が所蔵する現存最古1720年製クリストフォリ・ピアノの復元品による演奏でピアノの原点を感じてみる。

■ピアノが織りなすドラマの原点は、18世紀フィレンツェのある天才の発明にある。その発明とは、コレクションシリーズ5「クリストフォリ・ピアノ」で演奏されているバルトロメオ・クリストフォリによる「グラウヴェーチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ」、いわゆる世界初のピアノを指す。クリストフォリのピアノは、世界には3台しか残されておらず、いずれもその響きを確認できる状態にはないが、古楽演奏の高まりと共に、レプリカの制作が試みられるようになった。このディスクで使われている楽器は、そのようなレプリカ制作の中でも、いち早く1995年によって行われたものである。(ぶらあぼ)

演奏：小倉貴久子

使用楽器：クリストフォリ1720年モデル復元品 河合楽器製作所 1995年 浜松
収録曲：チェンバロ・ディ・ピアノ・エ・フォルテすなわち、いわゆる小さなハンマー付きチェンバロのためのソナタ集 作品1より第8番 イ長調 (L.M.ジュステイニ) / クラヴィチェンバロのためのソナタ集より (D.スカラッティ) / チェンバロのためのソナタ 第3番 八長調 (B.マルチェロ) / クラヴサンのための組曲集 第1集より第5番 ホ長調 (G.F.ヘンデル) / クラヴィチェンバロのためのソナタ集よりソナタ (B.ガルツピ) 他全6曲



LMCD-1785

6 古管尺八～音の表情～

江戸時代の虚無僧尺八の姿を今にとどめる古管尺八。現代尺八とは異なり、管の内側に地(漆と砥の粉を水で練ったもの)を塗って滑らかにすることをせず、節もすべてを取り去らない、自然な竹の形状を残す古管地無し尺八。演奏は非常に困難だが、その妙音は聴く者を尺八の原点へと誘う。邦楽ジャーナル推薦盤。

演奏：志村哲

使用楽器：「露堂々」三代目侯野真龍 (1886-1936) 京都 / 「宗阮」作者不詳 江戸時代? / 「水辺」林虎月 (?-1905) / 「還生」初代侯野真龍 (1791-1861)

収録曲：虚空 / 鹿遠音 (明暗対山流) / 瀧落曲 / 秘曲 鶴之巢籠 (蓮芳軒喜喜軒)



LMCD-1786

7 舞踏への勧誘 ～ウィーンの名・ワルター・ピアノ～

■珠玉の名曲の宝庫。19世紀初頭のピアノ音楽は活気に満ちています。華麗なテクニックをもつピアニストはヴァルトゥオーゾと崇められ、輝かしいピアニズムが楽しめました。またピアノ音楽にはポエジーで内面的に秘められたロマンティズムが溢れています。ピアノの音域は年々拡大し、無限の可能性が秘められたこのマジックボックスのために数多々の名曲が書かれました。個性的なピアノ製作者が数多く排出された19世紀初頭のヨーロッパ、「ピアノ」の個性が作品にも大きく反映されています。ワルターはウィーンを代表する製作者です。明快で美しい音質には気品が漂います。また素朴で安らぎの感じられる音色は、ウィーンのブルジョア家庭に愛されました。市民に力と余裕が生まれたこの時代のハウスミュージック(家庭音楽)は豊かなレパートリーをもっています。そんな時代の空気を感じていただくことができれば幸せに思います。(小倉貴久子ライナーノーツ)

演奏：小倉貴久子

使用楽器：A.ワルター & サン 1810年 ウィーン

収録曲：舞踏への勧誘 (C.M.v.ウーバー) / 即興曲 変ホ長調 作品90-2 (F.シューベルト) / ポロネーズ「気まぐれな美女」(J.N.フンメル) / 2つのスケルツォ (F.シューベルト) / 即興曲 イ長調 作品7-4 (J.V.ヴォーグラー) / ソナタ 嬰ヘ短調 (F.シューベルト) / ソナタ 変ホ長調 作品81a (L.v.ベートーヴェン) / ハンガリー風ロンド 八長調 作品107-6 (J.N.フンメル)



LMCD-1804

8 百合の花ひらく～フランスの美・ブランシェ・チェンバロ～ フランソワ・クーブラン クラヴサン曲集

■フランソワ・クーブランは、生まれこそ17世紀ですが、「ポルトレ」に代表される18世紀ロココのバイオニア的存在であると同時に、一代にしてそれを完成させ、金字塔を打ち立てた人物です。彼の音楽には西洋音楽に必須の「気取り」があり、「遊び心」があり、「軽やかさ」もある...そして何よりもクラヴサンの音色に美しさに対する追求、これこそがフランソワ・クーブランの神髄です。(中野振一郎ライナーノーツ)

演奏：中野振一郎

使用楽器：フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年 パリ

収録曲：目覚まし時計 / 刈り入れをする人々 / 優しい恋わずらい / 田園詩 / 神秘的バリケード / 輝かしい女 / 生まれながらのあでやかさ / おひえる紅ひわ / 百合の花ひらく / 葦 / 恋のうぐいす / シテール島のカリヨン / 軽はずみな人 / 小さな風車 / 修道女モニク / うなぎ / 手品 / 女道化師 / 半人半獣のサテロス / 高雅 / プレリュード第1番、第2番、第4番、第5番、第7番 他全32曲



LMCD-1805, 1806 (2枚組)

9 ショパン ピアノ協奏曲第1番 室内楽版 ブレイエル・ピアノによる

現代私たちがオーケストラとピアノという組み合わせで慣れ親しんでいるピアノ協奏曲は、19世紀前半には、実は室内楽で演奏されることのほうが多かった。当時のピアノの姿や演奏会や楽譜の出版状況を見ると、それはごく普通のことであった。そして、室内楽での演奏は、オーケストラ版とは異なる魅力を持っていた。中でもショパンの作品は、当時のピアノでの室内楽演奏によってこそ、そのもうひとつの真価が表現できるのである。古くて新しいショパンの魅力である。

演奏：小倉貴久子(ピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 白井圭(ヴァイオリン) 長岡聡季(ヴィオラ)

花崎薫(チェロ) 小室昌広(コントラバス)

使用楽器：J.ブレイエル 1830年 パリ

収録曲：ピアノ三重奏曲ト短調 作品8 / ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11 ドイツ初版(1833)に基づく弦楽五重奏付委付き / 別れの曲 / ピアノと弦楽五重奏版(小倉貴久子編)



LMCD-1828

10 ノクターン ～ショパンの愛したブレイエル・ピアノ～

パリに出たショパンが愛したピアノはエラールとブレイエル。気分があまりよくない時はエラールを弾き、気分がよい時はブレイエルを弾いたという。それほどブレイエルのピアノは演奏も難しく、奏者の心のありようが音に現れてしまう繊細な楽器だったのだろう。

■私は、このブレイエル・ピアノで音楽を奏するとき、あまりの幸福感に恍惚としてしまうことがあります。(小倉貴久子ライナーノーツ)

演奏：小倉貴久子

使用楽器：J.ブレイエル 1830年 パリ

収録曲：25の練習曲 作品100より (J.F.F.ブルグミュラー) / 仔犬、エオリアン・ハーブ、別れの曲、革命、幻想即興曲、パレード第1番ト短調 作品23、ノクターン 変ニ長調 作品27-2 (F.ショパン) / ノクターンイ長調 (J.フォルド) / 性格的練習曲集作品95より「優しさ」(J.モシェレス) / ロマンと華麗なロンドへ長調 作品96 (F.カルクプレナー) / ソナタイ短調 (J.ブレイエル)



LMCD-1829



11 19世紀のトランペット

18世紀までのナチュラルトランペット全盛期の後、19世紀になると金管楽器のトランペットとその仲間、ヴァルヴシステムもあって、著しく変化していく。19世紀には現代のオーケストラや吹奏楽でももう使われない多種多様な金管楽器が存在していたのだ。いまでもなく、全てがその音色において独特の美しさを持っている。19世紀のトランペットとその仲間の魅力を辿る「トランペット博物館」アルバム。



LMCD-1835

演奏：神代修(トランペット) 小倉貴久子(ピアノ)

使用楽器：ナチュラルトランペット J.G.シュミット 1738年 シレジア/スライド・トランペット C.ペイス 1834年 ロンドン/長管トランペット F.J.シュトヴァッサー 1880年 グラスリッツ/コルネット H.ディスティン 1870年 ロンドン/キー・ビューグル E.G.ライト 1850年頃 ポストン/フリーゲルホルン O.M.リート 1900年頃 インクライス(ドイツ)/コントラバト・サクソリン A.サックス 1844年 パリ/オーバー・ザ・ショルダール・サクソリン(ソブラ) 作者不詳 19世紀中頃 フィラデルフィア 他全13種 ピアノ エラール 1874年 パリ

収録曲：トランペット 教本第1巻第1番、第3巻、第9巻、第19巻、第20巻(F.G.A.ドゥヴェルネ) / アダージョ(G.F.ヴェルディ) / ロマンツェ(W.A.モーツァルト) / ヴェニスの謝肉祭(J.マーチン) / 夢のあとに(G.フォーレ) / 歌の翼に(F.メンデルスゾーン) / 私のお父さん(G.ブッチーニ) / ポストホルン・ギャロップ(A.ケーンツィ) / 夢見る人(S.C.フォスター) / ヴォカリーズ(S.V.ラフマニノフ) / ホーム・スイート・ホーム(H.R.ビショップ) / アンニー・ローリー(J.D.スコット) / ヨハン大公のヨーデル(オーストリア民謡) / アメイジング・グレイス(黒人聖歌) / 浜辺の歌(成田為三)

12 オリジナル・サクソフォーン アドルフ・サックス作による

現代でもジャズ、吹奏楽、クラシックなど多くのジャンルで使用され、人気のあるサクソフォーンは、1840年にベルギーの楽器製作者アドルフ・サックスが発明した。発明当時の楽器と現代のものとは機構、音色、音量、操作性など全てが異なるが、当時のものは、明らかに木管楽器を感じさせる素朴で温かな響きがある。弦楽器ではないのかと思ってしまうほどだ。サックスの手による5種のサクソフォーンで、19世紀パリの薫りを楽しんでいただく。



LMCD-1836

演奏：井上麻子(ソプラノ) 篠原康浩(アルト) 中谷龍也(テナー) 飯守伸二(バリトン) 中野聡子(ピアノ)

使用楽器：サクソフォーン アドルフ・サックス パリ ソプラノ 1860年/アルト 1859年/テナー 1859年/バリトン 1860年/メロディ 1855年頃

収録曲：四重奏曲(C.フリーホ) / カンツォナパリエ〜四重奏曲 作品109 より(A.グラスノフ) / 四重奏曲第1番(J.サンジュレ) / 古城〜展覧会の絵より(M.M.ソルゲスキ) / 夢のあとに(G.フォーレ) / 亜麻色の髪の乙女(C.D.ビュッシー) / 白鳥(C.サン＝サーンス) / ノジムノベディ第1番(E.サティ) / ジュ・トゥ・ヴ(E.サティ) / 金婚式(G.マー) / アンヴェ・マリア(F.シューベール) / G線上のアリア(J.S.バッハ) / アヴェ・マリア(C.グー)

13 三美神 ～18世紀ヴェルサイユ・クラヴサン音楽の美の世界～

シリーズNo.8に続く、名器ブランシェによるフランス、ロココ音楽の精華。■「利他的”気まぐれ”の支配する世界、ロココ。美しい旋律よりもクラヴサンの出す音色の美自体を追求する意識。そこから派生する装飾美、軽やかさ、あでやかさ…この文化が14世紀から16世紀へと受け継がれていく。これが17-18世紀音楽の本質です」―自身でCDのために書いた解説には、どこか、中野振一郎という演奏家の本質と重なり合う部分がある。(池田卓夫ライナーノート)



LMCD-1847

演奏：中野振一郎

使用楽器：フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年/パリ

収録曲：アルマンド ハ短調 (J.デュプリ) / 優しい訴え(J.Ph.ラモーン) / 鳥たちのさえずり(J.Ph.ラモーン) / ルクレール(A.フォルクレ) / ラモーン(A.フォルクレ) / スキタイ人の行進(J.N.P.ロワイエ) / のみ(J.B.de.ボワムルティエ) / アルマンド(A.L.クーブラン) / クーランド、ドゥ・クワロッシイ(A.L.クーブラン) / ドゥ・プロムブル(J.デュプリ) / 三美神(J.デュプリ) / マルゼルブ(C.B.バルバトル) 他全16曲

14 ベートーヴェン～ピアノ協奏曲第4番 室内楽編～ワルター・ピアノによる～

ベートーヴェン自身の編曲による室内楽編曲版。

■彼女のワルトツォジや生き生きとした感性はほんとうにすばらしく、ベートーヴェン自身も、もしそれを体験していたら喜んだに違いありません。(H.W.キューテン / ボン、ベートーヴェン研究所元研究員)

■小倉、桐山、花崎のトリオが発揮するエネルギーは圧倒的で、音楽の力は音量に依存しないことを思い知らされる。(毎日新聞)

■なるほど200年前の人たちは、この曲を聴くばかりでなく、こうして家族でも演奏して楽しんだのかと納得すると同時に、自分でも弾いてみたくなった。(朝日新聞)



LMCD-1858

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 高木聡(ヴァイオリン) 藤村政芳(ヴィオラ) 長岡聡季(ヴィオラ) 花崎薫(チェロ)

使用楽器：A.ワルター&サン 1810年 ウィーン

収録曲：交響曲第2番 二長調 作品36 ピアノ/三重奏版/ピアノ協奏曲第4番 長調 作品58 原典資料に基づく室内楽編 (H.W.キューテン編)

15 月光/春～ワルター・ピアノと弦によるベートーヴェンの輝き～

「月光」第1楽章のベートーヴェンの指示は「ソルディエノ無しで」。ベートーヴェンの言うソルディエノとはダンパーの意味。従ってダンパーオフで弾きなさいという指示である。今のピアノでそんなことをすれば音が濁ってしまう。しかし当時のピアノではできるのだ。現代ピアノでは不可能な、夢のような音響空間が生まれるのだ。

■聴き慣れたはずの「悲愴」や「月光」が、初めて出会った未知の世界の音楽のようにすらきこえる。はねあがきのフォルテピエタだからこそ生じる独特の強弱、指のタッチ、間の取り方など、まさに目からうろこが落ちる気分。(朝日新聞)



LMCD-1859

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 花崎薫(チェロ)

使用楽器：A.ワルター&サン 1810年 ウィーン

収録曲：ピアノ・ソナタ ハ短調 作品13「悲愴」/ピアノ・ソナタ 嬰ハ短調 作品27の2「月光」/ヴァイオリン・ソナタ へ長調 作品24「春」/モーツァルトの「魔笛」より「恋人か女房か」によるピアノとチェロのための12の委奏曲 へ長調 作品66

16 シューマン夫妻の室内楽 クララ・ヴィーク：ピアノ協奏曲/ロベルト・シューマン：ピアノ五重奏 伝クララ・ピアノによる

■シューマンの音楽には私的な文学のロマンチズムが滲みられ、幻想的で異空間に我々を誘うかのような独特の世界があります。…クララの協奏曲は、あまり演奏される機会のないのですが、当時のヴィルトゥオーソの演奏スタイルが彷彿とされる超絶技巧とパッション溢れる魅力的な作品です。たった16歳で作曲したなんて驚きです！…19世紀の空気を知っていたフォルテピアノは、現代のピアノが失ってしまった香り、色彩感を持っています。豊かなロマン派、室内楽の世界をお楽しみください。(小倉貴久子ライナーノート)



LMCD-1868

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 藤村政芳(ヴァイオリン)

長岡聡季(ヴィオラ) 花崎薫(チェロ) 笠原勝二(コントラバス)

使用楽器：伝クララト・グラーフ 1820年 ウィーン

収録曲：ピアノ協奏曲 イ短調 作品7「ドイツ初版(1837年)に基づく弦楽五重奏付付き」(クララ・ヴィーク) / シューマン / ピアノ五重奏曲 変奏長調 作品44(ロベルト・シューマン) / 協奏曲楽章 へ短調 (クララ・シューマン) / de ペーンハウワーによる復元稿、桐山建志によるピアノ六重奏編曲

17 フリードリヒ大王の宮廷音楽 ～2つの“クヴァンツ・フルート”によるバロック・フルートの魅力～

啓蒙専制君主として有名なプロイセン王国のフリードリヒ大王。彼はプロシアを第1級の国家に育て上げた名君であるとともに、芸術をこよなく愛した文化人でもあった。自らもクヴァンツを師としてフルートをたしなんだ。現在世界に残るクヴァンツ・フルートは9本。楽器博物館所蔵のものには大王の時代にベルリンの宮廷楽団で使われていたもの。世界の宝でもあるこのフルートを、吹き込みと調整に1年かけ2006年にコンサートを開催。その後さらに吹き込みと調整を重ね、このCDができた。収録曲はベルリンとボツダムで作曲されたもの。音楽史上に輝くベルリン楽派の作品とクヴァンツ・フルートの妙音を収めた価値あるアルバムである。



LMCD-1869

演奏：有田正広(フルート) 木下恵子(フルート) 有田千代子(チェンバロ)

使用楽器：2キー・フルート C.F.フライヤー1世 1763年以降 ベルリン / 2キー・フルートJ.J.クヴァンツ 1740年? ボツダムまたはドレスデン(奏者蔵) / チェンバロ フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年/パリ

収録曲：フルート・ソナタ 小短調 Wq.124 (C.P.E.バッハ) / フルード・ソナタ イ短調 (フリードリヒ大王) / 「フランス風」二長調、「アダージョ」ロ短調 (フリードリヒ大王のための練習曲から) (J.J.クヴァンツ) / 12の小品集 (1759年=Wq.81、1770年=Wq.82から) メヌエツト、ポルネース、アンダンテ、アレグロ、アレグロ・スケルツァン、アラ・ポラッカ、アンダンティーノ (C.P.E.バッハ) / フルード・ソナタ 小短調 Qv.1:167 (J.J.クヴァンツ) / 2本のフルートのための二重奏 長調 Falck 59 (W.F.バッハ) / フルード・ソナタ 小短調 (F.ペー) / フルード・ソナタ 長調 (J.Ph.キルンベルガー) 他全16曲

18 ナチュラルホルン ～自然倍音の旋律美と素朴な力強さ～

ベートーヴェンやモーツァルトの時代に狩りや音楽の演奏で使われていたのは、現代のようなヴァルヴのついた複雑なホルンではなく、管を巻いただけの単純なナチュラルホルンだった。その不均質な音色と、管の長さによる調性の個性こそが、ホルン本来の魅力である。

■ホルンに限らず現代の楽器は、全ての音を均質化するという方向性で進化してきました。音の違いによる個性、調性による強烈なキャラクターの主張は、平均化への道の傍らに捨て去られてしまいました。ナチュラルホルンが廃れてゆく19世紀末に生きて、その保存に心血を注いだブラームスは、ナチュラルホルンによる演奏を、基本的かつ重要なことと説いています。(塚田聡ライナーノート)



LMCD-1876

演奏：塚田聡(ナチュラルホルン) 小倉貴久子(フォルテピアノ)

使用楽器：ナチュラルホルン A.クルトワ 1841年以前/パリ / ナチュラルホルン A.クルトワ 1854年頃/パリ / ナチュラルホルン デュボワ 1835~37年/リヨン / 狩猟ホルン 作者不明 1825年頃/ドイツ / 狩猟ホルン アラリ 1875年パリ(12,13) / 狩猟ホルン C.リッカリ 1904年頃 ストラスブル / 狩猟ホルン アシエーション・ジュネラル 1880年頃/パリ / 狩猟ホルン アラリ 1820年頃/パリ / フォルテピアノ A.ワルター&サン 1810年 ウィーン

収録曲：ホルン・ソナタ へ長調 (L.v.ベートーヴェン) / ホルン・ソナタ へ長調 (F.リース) / ホルン協奏曲 第3番 (W.A.モーツァルト) / 狩猟ホルンによる信号(ウサギを射た、馬車の到着を告げる呼び声、食事だぞ、あいさつ、野鳥を射た、ヘラジカを射た、アルプスカモシカを射た、オーロクスを射た、タマジカを射た、前進するための動かし)

19 愛の挨拶 ～美しきヴァイオリンの世界～

散歩のついでに野原で演奏したステッキ・ヴァイオリン、ダンスの家庭教師が上着のポケットから取り出してさっと弾いたボジェット、当時の性能の悪いマイクロフォンにラップを向けて演奏したストロー・ヴァイオリン、そんな光景を思い浮かべながら聴いてみるのも面白い。ヴァイオリンやキントン、シャノーやハウエルをはじめとするヴァイオリンも本当に素敵だ。「歌心」満載の素晴らしいお洒落なアルバム。



LMCD-1877

演奏：松田淳一(ヴァイオリン) 松田淳子(ピアノ)

使用楽器：ヴァイオリン J.スコット 18c前半 イングランド / ヴァイオリン J.ヴォッシュ 1758年 ブリュッセル / シャノー・ヴァイオリン F.シャノー 1820年頃/パリ / ハウエル・ヴァイオリン T.ハウエル 1836年 イングランド / ミュート・ヴァイオリン 18c ドイツ / ストロー・ヴァイオリン 20c前半 ロンドン / ステッキ・ヴァイオリン 作者不詳 19c後半 ドイツ / ヴィオラ J.ベッツ 1800年頃 ロンドン / ボジェット(キャット) J.レニュー 17c前半/パリ / キントン 作者不詳 19c前半 ドイツまたはオーストリア / キントン F.J.ジュネ 1767年/パリ / ピアノ エラール 1874年/パリ

収録曲：愛の挨拶 (E.エルガー) / タイスの瞑想曲 (J.M.マスネ) / 月の光 (C.D.ビュッシー) / ロンドンデリー・エア (アイルランド民謡) / ガエターノ・ブチャニニの様式によるテンポ・ディ・メヌエツト (F.クライスラー) / シチリアーノ (M.T.F.パラディス) / チェロと管弦楽のための「コル・ニドライ」(M.K.F.フルッフ) / ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ 長調 (A.ドヴォルザーク) / ゆりかごの歌(ブラームスの子守唄) (J.ブラームス) / 子守唄 (G.フォーレ) / メヌエツト 長調 (C.ベツォールト) / シチリアーノ (G.フォーレ) / クーブランの様式によるルイ13世の歌 (F.クライスラー) / ジェトゥ・ヴー (E.サティ)

20 麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に～ 伝グラーフ・ピアノによる メンデルスゾーン生誕200年記念

■19世紀前半のヨーロッパ市民社会に生き、ロマン派の詩情を歌いあげた作曲家、フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809～47)。…ピアノは常に彼とともにあり、彼の音楽の根底を支える楽器だった。…ピアノを中心に集まった4人の音楽家たちは、まるで作曲家の傍らにいるかのような息づかいで演奏を紡ぎます。時には親密に語りかけ、また時にはスリリングに火花を散らしながら、メンデルスゾーンの音楽の多彩な魅力を存分に伝える、素敵な演奏である。(星野宏美ライナーノーツ)

■その演奏がつねに心の傍らに生まれ、そのまますすぐ当方の胸に入っていくという実感を与えることにおいて、小倉貴久氏はじつに貴重なピアニストである。ここでも彼女はフォルテピアノを弾き、また歌の伴奏をつとめ、あるいは室内楽に興じながら、伎倆と歌ごころをつぶさに味わわせてくれる。…ここに聴く正統性は、花のように、果物のように瑞々しい「本物の香り」にほかならない。(レコード芸術)

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 花崎薫(チェロ) 畑儀文(テノール)

使用楽器：伝コンラート・グラーフ 1820年 ウィーン

収録曲：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 作品49 / 〈ロンド・カプリッチオーソ〉ホ長調 作品14 / 〈春の歌〉イ長調 作品62-6 / 〈ヴェネツィアの Gondola の歌〉嬰ハ短調 作品30-6 / 〈歌の翼に〉変イ長調 作品34-2 / 〈ヴェネツィアの Gondola の歌〉ロ短調 作品57-5 / 〈小姓の歌〉イ短調 / 〈月〉ホ長調 作品86-5 / 〈新しい愛〉嬰ハ短調 作品19-4 / 〈花束〉イ長調 作品47-5 / 〈17の厳格な変奏曲〉二短調 作品54



LMCD-1878

21 夢～トロイメライ～ 伝グラーフ・ピアノによる

■19世紀前半のドイツロマン派の薫りをお届けします。文学の世界と音楽の世界の濃厚な関係、言葉からインスピレーションを得て、音によって描き出される時間。うまれては消えてゆき、その幻影を楽しむ余韻。(小倉貴久子ライナーノーツ)

■小倉はいつものように豊かなテンペラメントによって起伏の大きな燃焼度の高い演奏を聴かせている。…シューマンの《謝肉祭》は小倉の本領発揮。緩急自在に存分に自らの音楽を奏でていて、これもライヴのような燃焼度だ。(レコード芸術)

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 畑儀文(テノール)

使用楽器：伝コンラート・グラーフ 1820年 ウィーン

収録曲：〈子供の情景〉作品15 (R.シューマン) / 野ばら (F.シューベルト) / セレナード (F.シューベルト) / 〈無言歌集〉第4巻 作品53より 変イ長調 Op.53-1、変ホ長調 Op.53-2、ト短調 Op.53-3 (F.メンデルスゾーン) / 〈謝肉祭〉第4巻の音符による愛らしい情景 作品9 (R.シューマン)



LMCD-1879

22 至宝のパロック・オーボエ スティンズビー・シニアとクレーニヒ

オーボエのストラディヴァリウスといわれるトーマス・スティンズビー・シニア、総象牙と銀キーという超豪華なクレーニヒ。ふたつのオーボエを名手本間正史と仲間たちが奏で、流麗なパロック・オーボエ作品集。

■本間さんの演奏は颯爽として生気と愉感にあふれた、積極的な音楽作りである。たとえば〈ジグ〉のように、どんなに速いパッセージでもひとつひとつの音の粒立ちよく、前に前にと息ながく進んでゆく。(レコード芸術)

■浜松市楽器博物館は、その膨大なコレクションの数、質ばかりでなく、収蔵楽器の音を体験できるほか、レクチャーやワークショップなどの教育普及事業への取り組みなど、市民に開かれた公共性の高い活動に特徴がある。…なにしろオーボエ愛好家、演奏家なら誰もが憧れるスティンズビー・シニアの楽器そのものが使われている。…パロック・オーボエの奥深さや魅力を体験できる録音である。(レコード芸術)

演奏：本間正史(オーボエ) 中野哲也(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 梅津樹子(チェンバロ)

使用楽器：3キー・オーボエ T.スティンズビー・シニア 1710 ロンドン / 3キー・オーボエ クレーニヒ 18世紀前半 ドイツ? / チェンバロ A.&J.カークマン 1791 ロンドン

収録曲：組曲第1番 (J.オテテール・ル・ロマン) / ソナタ第11番 (J.F.ヘルベル) / ソナタ第5番 (B.ゴッマン) / ソナタ・オーボエ・ソロ (J.C.?ペープッシュ) / 組曲第5番 (F.シヨヴァン) / ソナタ第4番 (J.B.レイエ) / ソナタ第5番 (G.サンマルティニ) / 組曲第2番 (A.de ヴァルヌーフ)



LMCD-1901

23 クラヴィコードの世界 ～秘められた音楽領域を探る～

日本初初のクラヴィコード・アルバム。オルガンと並んで最古の歴史を持ち、最も単純な機構を備えた鍵盤楽器の、驚くべき豊かな表情に迫る。

■ハイドンやC.P.E.バッハの鍵盤ソナタをオリジナル楽器で演奏。指のタッチがそのまま弦に伝わり、響くことを証明するかのよう録音だ。この楽器の特徴を知り尽くした演奏者による貴重な記録と言っている。(朝日新聞)

■その演奏ぶりに初めて触れたのだが、宮本とも子は、まことに素晴らしいこの道のスペシャリスト。クラヴィコードから美しく、しかも無限の表情変化を秘めた音色を引き出し、聴く者を魅了してしまふ。…疑いなく「一級品」である古楽の名盤。(レコード芸術)

演奏：宮本とも子

使用楽器：P.リンドホルム 1788年 ストックホルム

収録曲：ソナタ長調 (F.J.ハイドン) / ソナタ長調 (F.J.ハイドン) / クラヴィコードに別れを告げる Rond / ソナタ長調 (C.P.E.バッハ)



LMCD-1902

24 ウィーン、わが夢の街 ～オペレッタ・オン・ブランシェ～

19～20世紀のウィнна・オペレッタやウィンナー・リートの珠玉の旋律が、18世紀フランスのチェンバロと名手の演奏で、甘く美しく、そして時には切なく、鳴り響く…遊び心と恋心、歌心満載の粋なアルバム。

■(中野さんのメリー・ウィドウ・ワルツの演奏は)序奏からしてハプスブルク爛熟期のうらけた貴婦人の妖艶さ、危うさにあふれ、ひよびすと帝国崩壊の匂いまで振りまくから凄い。(池田卓夫ライナーノーツ)

演奏：中野振一郎

使用楽器：フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年 パリ

収録曲：ワルツ オペレッタ「メリー・ウィドウ」より (F.レハール) / マーチ オペレッタ「ワルツの夢」より (O.シュトラウス) / 別室へ行きましょう オペレッタ「オペラ舞踏会」より (R.ホイベルガー) / ポルカを踊りましょう オペレッタ「女嫌ひ」より (E.アイスラー) / ワルツ オペレッタ「ルクセンブルク伯爵」より (F.レハール) / マーチ オペレッタ「春のパレード」より (R.シュトルツ) / カルロッタ・ワルツ オペレッタ「ガスパロネ」より (C.ミレッカー) / 2人が愛し合っていれば オペレッタ「鐘掛屋小僧」より (F.レハール) / メアリーと一緒にちよっとロココ・フォックスを オペレッタ「シカゴの公爵夫人」より (E.カールマン) / プラター公園の春 (R.シュトルツ) / ワルツ・ポプリ (F.レハール) / 何となく酔いの唄 オペレッタ「愛をめぐるよもやま話」より (O.シュトラウス) / すみれの花咲く頃 レビュー「何と、女が1000人」より (F.ドエシ) / この世は美しい (F.レハール) / ウィーン、わが夢の街 (R.シーチンスキー)



LMCD-1917

25 バッハ・オン・ブランシェ ～もてなしのバッハ～

18世紀フランスの名器ブランシェ・チェンバロの、甘くはかない音色で聴く16調の端正でおしゃれなバッハ名曲集。

■曲と曲の間の関連やら対象やらが巧みに計られ、あたかも名店の懐石料理を味わうかのような気分させられる。CDのサブタイトルを「もてなしのバッハ」とはまさしく絶妙で、最上の素材を最上の味付けかつ配列により味わわせてくれるのだ。(レコード芸術)

演奏：中野振一郎

使用楽器：フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年 パリ

収録曲：平均律クラヴィア曲集I プレリュード 長調 BWV846 / 小プレリュード 短調 BWV999 / パルティータ第4番 曲二長調 BWV828 / イタリア協奏曲 第2楽章 アンダンテ 二短調 BWV971 / フランス組曲第4番 第1楽章 アルマンド 変ホ長調 BWV815 / ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第6番 アレグロホ短調 BWV1019 / 平均律クラヴィア曲集II プレリュード 長調 BWV854 / イタリア協奏曲 第1楽章 (速度表示なし) 長調 BWV971 / 平均律クラヴィア曲集II プレリュード 短調 BWV881 / 小プレリュード 長調 BWV927 / コルトベルク変奏曲 アリオー長調 BWV988 / イギリス組曲第3番 第1楽章 プレリュード短調 BWV808 / フランス組曲第5番 第1楽章 アルマンド 長調 BWV816 / フランス組曲第5番 第4楽章 ガヴォット長調 BWV816 / チェンバロ協奏曲第5番 第2楽章 ラルゴ 変イ長調 BWV1056 / インヴェンション第12番 長調 BWV783 / コラル「神の御心に委ねるものは」イ短調 BWV691 / インヴェンション第13番 短調 BWV784 / パルティータ第1番 プレリュード 変ロ長調 BWV825 / フランス風序曲つきパルティータ エコー短調 BWV831



LMCD-1918

26 地無し尺八の世界 ～瞑想の奥へ、響きの彼方へ～

2005年発売のNo.6「古管尺八 1～音の表情～」以来5年ぶりの第2弾。タイトルも「地無し尺八の世界」と改め、古管尺八の最も重要な特徴を前面に出した。地無し尺八は今や世界が目にする尺八の原点である。その銘器による古典名曲の演奏。地無し尺八の神髄「楔吹き(くさびぶき)」による「真音(しんね)」が凝縮された貴重なアルバム。

演奏：志村哲

使用楽器：「古可良志」三世侯野真龍(1886-1936) 京都 / 「秋草」林虎月(?-1905?) / 「露堂々」三世侯野真龍(1886-1936) 京都 / 無銘 古鏡(18世紀) 京都 / 三尺三寸管 小林照明(1952-) (奏者蔵)

収録曲：大和調子 / 虚鈴 / 虚空 / 霧海鏡 / 江戸時代の銘器「古鏡作」の音味を聴く



LMCD-1920

27 シューベルトイアーデ ～ピアノ五重奏曲《ます》

■ピアノを弾くシューベルトを友人たちが囲み、歌を歌い、室内楽を楽しむ、詩を朗読したりダンスをしたり…シューベルトの生前、そのような素敵な時間が数多くたれていました。友人たちはこの「夢のような時」を「シューベルトイアーデ」と呼んで、人生でもっとも美しい時間として大切にしていました。…マーシャル製作のピアノは、大ホールで伝わるような音量はありません。しかし、心をゆるした仲間だけが集まるくつろいだ部屋の中で、愛すべき音色を奏でられる…そんな「シューベルトイアーデ」を再現してくれました。(小倉貴久子ライナーノーツ)

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 畑儀文(テノール) 桐山建志(ヴァイオリン) 長岡聡季(ヴィオラ)

花崎薫(チェロ) 笠原勝二(コントラバス)

使用楽器：G.マーシャル 1808年頃 ウィーン

収録曲：音楽に寄す / ます / きみは悪い / 魔王 / ピアノソナタイ長調 D664 / ピアノ五重奏曲イ長調 D667 ます



LMCD-1921

浜松市楽器博物館の所蔵楽器を演奏した貴重なCD
コレクションシリーズCD 3,045円(8)のみ3,780円)
 一般販売価格(税込)

企画・制作：浜松市楽器博物館
 販売：コジマ録音 TEL.03-5397-7311
 問い合わせ：浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128

◎楽器博物館ミュージアムショップ、浜松市文化振興財団
 オンラインショップでも販売しています。
 ※No.1と2は廃盤です ※価格は2013年9月現在のものです



28 ショパン&リスト エチュード集 ～プレイエル&エラールピアノによる～

■小倉貴久子が弾くエチュード集は、プレイエルの機能を限界まで使い切る激しい演奏。ロマン派の申し子、ショパンの裡を吹き荒れた嵐が響き手を襲う。(朝日新聞)

■薫り高いプレイエルによるこの演奏は清潔感にあふれ、透明でくっきりとした音構成はショパンの原点を聞く思いである。(毎日新聞)

■聞きなれた曲の新たな側面が次々にあらわにされる面白さは抜群。「ラ・カンパネラ」の連打部分の色合いなど、なるほど当時はこのように響いたのか、と納得させられる。(読売新聞)

■まさしく驚きとしか言いようもない。彼女の指は文字どおり天衣無縫、信じられぬばかりの敏速さとの確さをもって鍵盤上を駆けるのである。これなら、自信を込めて、ショパンの作品中からあえて「練習曲集」上下2巻を選んだわけも、よくわかる。これだけ弾けていれば、もう何も言うことはない、という位にあっさり、ショパンもリストもこの人は弾いてのけるのだ。(レコード芸術)



LMCD-1922

演奏:小倉貴久子

使用楽器:フォルテピアノ/プレイエル 1830年パリ/フォルテピアノ/エラール 1874年パリ
収録曲:12のエチュード 全曲(F.ショパン)/12のエチュード作品25 全曲(F.ショパン)/バガニーニ大練習曲集 S.141より第2曲 変ホ長調(オクターブ)/第3曲 嬰ト短調(ラ・カンパネラ(鐘))/第4曲 ホ長調(アルペジオ)/第6曲 イ短調(主題と変奏)(F.リスト)

29 月の光 ～エラールピアノとフランスのうた～

■ショパンで名をあげたエラールだが、ドビュッシーや、フォーレ、サティらのフランス歌曲の伴奏にも最適。野々下由香里の絶妙な歌唱でいかにしえのバリのサロンの空気をたぶりと。(朝日新聞)

■小倉貴久子のエラール独奏ではフォーレもドビュッシーも音が生命のエランを得たのしげに歌っている。サロン風のエレガントな洒脱さにとどまらず、曲のもつ空気感に鋭敏に反応して自由闊達。感興に乗って空気の素を魔法のように引き出し、そのなかにこんなにゆたかな色や香りが隠されていたのかとおどろき、そのなかにはほっとしたいと思うほど。これはエラールの持ち味か、彼女の天性の賜物か、見分けがつかない。(レコード芸術)



LMCD-1924

演奏:小倉貴久子(フォルテピアノ) 野々下由香里(ソプラノ)

使用楽器:エラール 1874年パリ
収録曲:夢のあとに(G.フォーレ)/ゆりかご(G.フォーレ)/夕べ(G.フォーレ)/パレカロール(舟歌)第6番 作品70(G.フォーレ)/演奏会用練習曲(秋)に作品35-2(C.シャミナード)/「ベルガマスク組曲」(C.ドビュッシー)/フィディレ(H.デュパルク)/私の言葉に羽があったなら(R.アーン)/クロリスに(R.アーン)/ジユトゥウー(E.サティ)

30 ラ・カンパネラ ～エラールピアノ、音の世界～

■小倉貴久子が楽器の魅力を生かしつつ、リスト、ショパンとフランス近代の名品を巧みな表現で聴かせる。ことにラヴェルの「クーブランの墓」の演奏は秀逸。(読売新聞)

■ごらんのとおり周知の名曲のオン・パレード。しかし、それなのに、CD全体は新鮮な輝きを帯び、瑞々しい樹液をたぎらせた若木のような感触すら伝える。その理由は言うまでもなく、一にエラールから放たれる音色、二に、ピアノに触発されてピアニストとしての美点を一杯に發揮した小倉貴久子の演奏にある。たとえば「ラ・カンパネラ」の高音部連打があたかも火打ち石のような響きを立てると、それが何とも言えず快楽を誘うのだ。《英雄ポロネーズ》にはモダン・ピアノでは感じ取れない柔らかなペーソスが宿るし、《クーブランの墓》も、魅力的な響きにかけては他のどの盤にも劣るまい。ほか、すべてに魅力が宿る、といっても差し支えない。(レコード芸術)



LMCD-1925

演奏:小倉貴久子

使用楽器:エラール 1874年パリ
収録曲:《愛の夢》ノットゥルノ第3番 (F.リスト)/《ラ・カンパネラ》バガニーニ大練習曲集より(F.リスト)/《レント・コン・グラン・エスプレッジオーネ》(ノクターン) 嬰ハ短調 遺作(F.ショパン)/《ポロネーズ(英雄)》変イ長調(F.ショパン)/《ジムノペディ》第1番(E.サティ)/《ジユトゥウー》(E.サティ)/《喜びの鳥》(C.ドビュッシー)/《亡き女王のためのパヴァーヌ》(M.ラヴェル)/組曲《クーブランの墓》(M.ラヴェル)

31 ラ・ヴァルス ～華麗なるデュオ・ピアノの芸術～

■フランスでは、19世紀後半から20世紀前半にかけて、2台ピアノのための素晴らしい作品が数多く作曲されています。両側に鍵盤をもち、響板とケースを共有するデュオ・ピアノは、この頃のプレイエル社、エラール社などフランスのピアノメーカーが、何台も製作していました。それだけ、当時需要があったということですが。同じ種類の2台のピアノを揃えることは、なかなか困難なことですが、このデュオ・ピアノは、響板を共有しているので、響きを完全に融合させることができます。それは1台で行う連弾にも似ています。しかし、広い面積の響板をもち、ひとりで完全にひとつの鍵盤を占有できるデュオ・ピアノでは、豊かな音響効果を期待できるのです。…当アルバムで演奏しているデュオ・ピアノは、1925年製のプレイエルですので、当時の軽やかで色彩的な音色も、大きな魅力のひとつとなっています。共演の佐藤卓史さん(第8回浜松国際ピアノコンクール第3位ならびに室内楽賞)は、今、最も注目される若手ピアニストのひとりです。…二人で同じ響板を共有しながら、さまざまな音色や表現を試みたレコーディングの数日間、ソ・ロピアノの世界とも、他の楽器とのアンサンブルとも違う、興味深い世界を満喫しました。…19世紀末から20世紀にかけてのフランスの管弦楽の響きやエスプリを、デュオ・ピアノの演奏で楽しんでいただけたら嬉しいです。(小倉貴久子ライナーノーツ)



LMCD-1926

演奏:小倉貴久子(第1ピアノ) 佐藤卓史(第2ピアノ)

使用楽器:プレイエル 1925年パリ
収録曲:3つのロマンティックなワルツ(E.シャブリエ)/リンダラハ(C.ドビュッシー)/交響的二重奏曲作品117(C.シャミナード)/ラ・ヴァルス(M.ラヴェル)/スカラムーシュ(D.ミヨー)/8つの異国風の舞曲(J.フランセ)/エジーレ(F.ブランク)



32 バロック時代のフルート協奏曲

■18世紀王侯貴族文化が華やかかりしバロック時代、音楽は単なる「お楽しみ」以上の意味のあるものでした。人徳ある立派な王侯貴族＝人間は、国家をまとめ上げるため、必須の学問のひとつである音楽を理解しなくてはなりません。そこで演奏される楽器は、人間の様々な奥深い精神を音として表現する道具以上の道具Instrumentsでした。このCDで演奏されているクヴァンツ・フルートは、浜松市楽器博物館に大切に所蔵されている最も貴重な楽器のひとつでしょう。通常こうした歴史的に重要な楽器は、資料的価値の高さから、実際の演奏に使われることは殆どない中、同博物館では「音の資料」として残すという極めて音楽的な立場をとりました。(有田正広ライナーノーツ)

■今回のように古楽の名手たちによる由緒正しき銘器による演奏はまことに貴重である。(レコード芸術)

■このような「資料」的価値を持つディスクが、単なる企画性という面のみではなく、音楽的にも優れた成果を上げるものとなっている点は、高く評価されてしかるべきであろう。(レコード芸術)



LMCD-1934

演奏:有田正広(フルート) 宇治川朝政(リコーダー) 戸田薫(バロック・ヴァイオリン) パウル・エレハ(バロック・ヴァイオリン) 成田寛(バロック・ヴィオラ) 武澤秀平(バロック・チェロ) 諸岡典経(ヴィオローネ) 有田千代子(チェンバロ)
使用楽器:2キー・フルート C.F.フライヤー1世 クヴァンツ・フルートによる 1763年以降 ヴェルリン/2キー・フルート 上記フルートを基に杉原広一、有田正広によって復元製作 2010年 東京(奏者蔵)/1キー・フルート J.M.オトテール(L.R.) 1745年頃パリのフルートを基にC.スーペイランによって復元製作 2005年パリ(奏者蔵)/チェンバロ F.E.ブランチ2世 1765年パリ
収録曲:管弦楽組曲第2番 序短調(J.S.バッハ)/フルート協奏曲 イ短調(M.ブラヴェ)/リコーダーとフルートのための協奏曲 ホ短調(G.Ph.テレマン)/フルート協奏曲 長調(J.J.クヴァンツ)

33 イングランド麗し～吟遊詩人の歌と変奏曲～ 18世紀のスピネット、チェンバロとソプラノによる

■このアルバムでは、16世紀後半から18世紀末までの、約200年に渡るイギリス音楽を集めました。チャーミングなタイトルを持つ、これらの音楽には、当時口ずさまれたり、鼻歌のようにして、人々に親しまれていたメロディが多く含まれています。…キーン作のスピネットは、まるで子供が弾いていたかのような可愛らしい楽器で、出てくるのは、囁くような明るい音色。一方、カークマン作のチェンバロの響きは深く、特に低音は巨大に伸び、弾いている私が飲み込まれてしまいそうほどでした。…録音しようとする作品達のイメージは、どちらの楽器で弾いても良い意味で覆されてしまい、演奏するテンポや解釈が徐々に変化していきました。やはり、楽器達の音色は、私の予想をはるかに超えて熟成していたようです。何せ、これらの名器は300年前から呼吸しているのですから。(水永牧子ライナーノーツ)

■ふたつの楽器の音色は純で好ましく、広瀬さんの歌声もまっすぐで透明。さわやかな思いをこめたCDに仕上がった。(レコード芸術)



LMCD-1935

演奏:水永牧子(スピネット、チェンバロ) 広瀬奈緒(ソプラノ)

使用楽器:スピネット S.キーン 18世紀初期 ロンドン/チェンバロ A.&J.カークマン 1791年 ロンドン
収録曲:ラムレイ卿のパヴァーヌ(J.ブル)/ラムレイ卿のガリアード(J.ブル)/出て行く! このめやもやし気持ち(作者不詳)/まぬけなシモン(J.P.スウェーリントン)/王の狩(J.ブル)/グラウト ハ短調(H.パーセル)/ロンドー(H.パーセル)/もう一度 戻っておいで(J.ダウランド)/ソナタ第3番 長調(T.A.アーン)/つかの間の音楽(H.パーセル)/グラウンド ニ短調(H.パーセル)/ソールズベリー伯爵のパヴァーヌ、ガリアード(W.バード)/王のモリスコ(作者不詳)/バグパイプとドラムン「戦い」より(W.バード)/今のうちに薔薇のつばみを摘んでしまおう(W.ロウズ)/デンマーク王子の行進曲(J.クラーク)/狩のアルマンド(J.ブル)/ジョン、今キスしに来て(W.バード)/グリーンズリーヴス(イギリス民謡)

34 ヴィオラ・ダ・ガンバ・コンソート ～16-17世紀イギリス音楽の栄光～

■世界屈指の楽器コレクションをもつばかりでなく、見学者への利便性、ワークショップ開催など、公共性に裏打ちされた活動続ける浜松市楽器博物館。その重要な柱が所蔵楽器による録音であり、その意義はいままでも強調してきた。…この編成の(ガンバ)コンソートになると、大陸よりはイギリスで多く実践された。ここにはその精髓が集められているだけでなく、上村かおりなどヨーロッパでも活動している実力派音楽家たちの演奏は、きわめて質が高い演奏である。ダウランドなど、アンサンブルの中に明滅するように現れる旋律の、こぼれるような美しさ、それをとりまくパートとの絡みのパランスなどほればれとするとよいだ。(レコード芸術)



LMCD-1941

演奏:ザ・ロイヤル・コンソート(上村かおり 坪田一子 森川麻子 諸久島謙 福沢宏 武澤秀平)
使用楽器:トレブルLゲルサン 1751年パリ/テールノール 作者不詳 1720年頃ドイツ/バス 作者不詳 18世紀前半 イングランド/バス 作者不詳 17世紀後半 ロンドン ほか
収録曲:最も美しい島よ(H.パーセル)/恋が甘いものならば(H.パーセル)/クーラント(M.ロック)/エア(M.ロック)/サラバンド(M.ロック)/ファンタジア(T.ルボ)/おお、聖なる三位一体の光よ(T.プレストン)/5声のインノミネ(O.ギボンズ)/パヴァーヌ(W.ローズ)/エア(W.ローズ)/彼女は言い訳が出来るのか?(J.ダウランド)/もう一度、愛が呼んでいる(J.ダウランド)/さあ、今、さようなら(J.ダウランド)/昔の涙(J.ダウランド)/ジョン・スーパ卿のガリアード(J.ダウランド)/キャプテン・ヒュームのパヴァーヌ(T.ヒューム)/グラウンド上のディヴィジョン長調(C.シンプソン)/ファンタジア(T.ルボ)/5声のインノミネ(W.バード)/ファンタジー第5番(J.ロッキンクス)/6声のインノミネ(H.パーセル)

35 ショパン ピアノ協奏曲第2番 室内楽版 ～プレイエル・ピアノと弦楽五重奏による～

■オーケストラの数も演奏の機会もきわめて少なかった19世紀前半、室内楽としても演奏出来るよう、総譜なしのパート譜だけで売られることがよくあった。1836年、ショパンのピアノ協奏曲第2番のパート譜が、初めてドイツで出版されたのが好例だ。それを用い、弦楽五重奏による室内楽版を、小倉貴久氏が独奏して録音した。使用楽器はショパンが愛したプレイエル製で、しかも彼がパリに着く前年の1830年作のもの。ともすると聴き惚れてしまう華麗な今日の演奏と違い、作曲家の意図が鮮明に感じ取れるようなゆとりがある。独奏も、現代の超人的技巧主義とは無縁で、繊細優美な叙情的流れのなかに親しみやすさを感じさせ、この作品の本質に初めて触れたような気になさされる。(朝日新聞)

■特に、当盤の核をなしている室内楽版の協奏曲第2番は、バックが弦楽五重奏となったことで線が細くなるかと思いきや、むしろ無駄が削ぎ落とされて、音楽がダイレクトに伝わって来る印象。オリジナル楽器の美点が前面に出た好演だ。(ぶらあば)

演奏:小倉貴久子(フォルテピアノ) 桐山建志(ヴァイオリン) 藤村政芳(ヴァイオリン) 長岡聡幸(ヴァイオリン) 花崎薫(チェロ) 小室昌広(コントラバス)

使用楽器:J.1.プレイエル 1830年/パリ

収録曲:華麗なるワルツ 変イ長調 作品34-1 / マズルカイ短調 作品17-4 / パラード 第3番 変イ長調 作品47 / パラード 第4番 短調 作品52 / レント・コン・グラー・エスプレッシオーネ(ノクターン) 嬰ハ短調 連作/ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品21(ドイツ初版に基づく室内楽版)



LMCD-1942

39 地無し尺八の可能性 ～祈りから未来へ～

楽器博物館コレクションシリーズ古管地無し尺八の最後を飾る3枚目のアルバム。今や世界が目注する地無し尺八の魅力と可能性を、古典本曲のほか高橋悠治の現代作品をも通じて味わえる。

■古典本曲の「神霧海鏡」「神嘘鈴」「瀧落」など。いずれも特徴のある音楽だ。作品ごとにそれぞれ異なった色合いを示すが、「地無し尺八」の響きが明治時代まで続いた本当の意味での「古典本曲」の音だと思えば、今日の尺八はなんと均質に響くことかと、改めて伝統的な音に触れた思いがする。それは1音の中に様々な色彩があり、その音色的な幅が広く深いのである。高橋悠治も、現代尺八のように様々な奏法を用いることなく、自然な響きを求めているのだが、尺八自体が均質な音でなため、自然に重音が洩れ出るところもあって面白い。尺八という伝統的な楽器が、明治時代に施された地塗りによって本来の1音の中にある多彩な響きを失ってしまったことを、改めて聴いた。(レコード芸術)

演奏:志村哲

使用楽器:「名残りの竹」伊藤虎眼(1862-1921) / 「古可良志」三世俣野真龍(1886-1936) / 「舞妓」近藤宗悦(1821-1867) / 「枯淡」小林照明(1952-) (奏者蔵) / 「瀧落」小林照明(1952-) (奏者蔵)

収録曲:神霧海鏡 / 神嘘鈴 / 瀧落 / 俣(高橋悠治)



LMCD-1961

36 デュフリ全集I ～18世紀フランスの雅～

■フランスで最も「18世紀らしい生き方」をした音楽家はジャック・デュフリだと言える。18世紀に生まれ、18世紀を歩み、18世紀に殉じた作曲家の楽曲を、同じく18世紀のオリジナル楽器で聴く。演奏者は18世紀フランス生まれというわけにはいかないが、その音楽語法に最も精通した演奏家のひとり、中野振一郎さんだ。そう、我々はこのCDでただ鍵盤楽曲を聴くのではない。「18世紀のフランス」そのものを聴くのである。(澤谷夏樹ライナーノーツ)

■マリー・アントワネットも好んだハープやクラヴサン(チェンバロの仏語名)の演奏が部屋に音の装飾を添える。ハープもクラヴサンも音の強弱はほとんどなく、バロック音楽の劇的表現にもロマン派の感情表現にも適さない楽器であり、文字通り装飾文様のような音の線を描く。…どちらの楽器も音色ばかりでなく、曲線と特色とするその優美な形もまた、演奏する女性や家具類とも調和しつつ、ロココ室内を彩っていたのだ。(和田章男ライナーノーツ)

■中野振一郎のような斯界の「わけ知り」が興に乗って弾きあげるならば、文字通り珠玉の光沢をおびる。「第1巻」「第4巻」を併せた当盤の演奏曲からも、聴き手はいくつも、忘れ難いお宝を拾い集められるはずである。…これまで日本ではまことに紹介不十分だったこの作曲家、サブタイトルのとおり「18世紀フランスの雅」を体現する人の、全貌を掌中にして味わえることになる。(レコード芸術)

演奏:中野振一郎

使用楽器:フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年/パリ

収録曲:クラヴサン曲集 第1巻&第4巻 全20曲



LMCD-1943

37 デュフリ全集II ～18世紀フランスの雅～

■これぞデュフリの魅力と思えるのは後者、優美で詩的な楽曲の数々であろう。多くは古今のーただし、当時として一人名である固有な名詞を伴う楽曲、すなわちデュフリによる周囲の人びと、あるいは歴史上の人びとポートレートである作品となっており、またいっぽうから見れば、ほとんどが当時の宮廷舞曲の体裁をとっている。解題として載せられた深谷夏樹、和田章男の両氏による文章も、デュフリとその時代を知る上に大変有効。これはミニメンタルな業績、当のフランスをはじめ世界に発信した豊かな仕事である。(レコード芸術)

演奏:中野振一郎(チェンバロ) 上野美科(ヴァイオリン)

使用楽器:フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年/パリ

収録曲:クラヴサン曲集 第2巻&第3巻 全31曲



LMCD-1944,1945(2枚組)

40 シューベルトアデーテII 即興曲とヴァイオリン・ソナタ ～伝シュトライヒャー・ピアノによる～

■本録音で聴けるシュトライヒャーの作と伝えられているピアノは、シューベルトの慟哭を、悩みを、そして夢見るような美しさを、聴き手の心へ直接訴えかけて来るような音色を持っている…七條の演奏は、4オクターヴのユニゾンに大胆に長く響かせ、やがて静かに歌が紡がれていく即興曲の冒頭から、どの瞬間を切り取っても、まるでその場で音楽が生まれ出ている臨場感に満ちている…ヴァイオリンの山口が加わった二重奏において、二人の演奏家はお互いの音を味わいながら丁寧アンサンブルを進め、シューベルトの書いた音符を余すことなく音楽として再創造していく…歴史的楽器による演奏がスタンダードになりつつある現代においても、そう出会えることのない素晴らしいシューベルト演奏の登場を、心よりの共感を持って迎えたい(長岡聡幸ライナーノーツ)

■いかにもウィーン的な雰囲気と備えた古銘器から、真髄に触れた響きと「歌」を抜き出している。《即興曲》第1番の一見げざわしい歩みのうちに込められた言い知れぬ優美さを、心ゆくまで弾き表し得た演奏を、まず味わう。以下、どの曲も、微かに触れた演奏が続く。第3番(変ト長調)も、穏やかさのうちに秘められた人生の果てという悲涼感、あやまたずに胸いあげている。(レコード芸術)

演奏:七條恵子(フォルテピアノ) 山口幸恵(ヴァイオリン)

使用楽器:フォルテピアノ/伝A.シュトライヒャー 1815年頃 ウィーン/ヴァイオリンP.ロンパウト 1710年頃 アムステルダム(オランダ国立楽器財団蔵)

収録曲:4つの即興曲 第1集 D899 op.90 全曲 / 4つの即興曲 第2集 D935 op.posth.142 より第3番 変ロ長調 アンダンテ/ヴァイオリン・ソナタ 二長調 D384 op.137 No.1



LOMCD-1962

41 大いなる転換期の音楽 ～18世紀英国王室とカークマンの時代～

■17世紀における英国のハープシコード(チェンバロ)音楽には独特の魅力がある。ごく個人的な感想かもしれないが、少なくとも私はそう信じてやまない。エリザベス女王時代のヴァージナル音楽、ヘンリー・パーセルの作品…いずれも自然に音楽を演じられる喜びを感じてきた。ヨーロッパ鍵盤音楽の黄金期を代表する存在であったから…もし理由があるのだとすればそんなところだろうか。一方で楽器という視点から考えると、英国のハープシコードが個性を發揮するようになるのは「18世紀になってから」だと云われている。このCDに使用したカークマン製の楽器もそのカテゴリーに入る。カークマンは純然たるイギリス人ではないが、彼の楽器には強烈な「イギリス臭さ」がある。音色、美意識、機能性…不思議なパワーを持ったハープシコードだ。この楽器の音色は美しく気品に満ちている。(中野振一郎ライナーノーツ)

演奏:中野振一郎(チェンバロ) 川田知子(ヴァイオリン)

使用楽器:A.&J.カークマン 1791年 ロンドン

収録曲:ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 二長調 HWV371 (G.F.ヘンデル) / ハープシコードのためのソナタ 作品5より第2番 二長調(J.C.バッハ) / ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 長調 HWV372 (伝G.F.ヘンデル) / ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 短調 HWV364a (G.F.ヘンデル) / ハープシコードのためのソナタ 作品5より第3番 長調(J.C.バッハ) / ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 長調 HWV361 (G.F.ヘンデル)



LMCD-1963

平成24年度文化庁芸術祭レコード部門大賞受賞

38 イギリス・ソナタ ～ブロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～

■浜松市楽器博物館は数年前より積極的に、自らの所蔵楽器を用いたユニークな録音を出してきたが、このCDは1802年のイギリス式ピアノを用い、当時斬新な響きによりセンセーションを巻き起こしたこの楽器を想定して作曲されたと思われるデュセック、フィールド、クレメンティ、ペートーヴェンらの作品を集めたものである。演奏も秀逸で、ヴァルトシュタイン・ソナタなどは、まさに産業革命の時代の音楽であったことを如実に実感させる録音である。(文化庁)

■玉を転がすような軽やかなタッチのウィーン式(跳ね上げ式)と違って、イギリス式は重厚で力強いタッチと響きの特徴とする。筆者の見るところ、このような楽器に小倉のピアノイズムはよく合っている。いつものように非凡な集中力と曲への同化力を發揮し、楽器の音色を良く引き出すと同時にいずれもパッションに溢れたダイナミックな演奏を聴かせている。たとえば、ハイドンの第1楽章の囁み付きの良いタッチはフォルテピアノならでは、俊敏な指廻りが作曲家の機知をよく表現しているし、「ヴァルトシュタイン」ではヴァルトウオーゾ振りを発揮。(レコード芸術)

■小倉貴久子はいつもながら楽器を最深度まで血肉化した熱いパフォーマンスを繰り広げる。ポトムから突き上げる力強い楽器の鳴りを駆使し、華麗なデュセック、諧謔的ハイドン、快活なフィールド、疾風怒濤のクレメンティ(名曲!)と自在。そして雲霞状の主和音の音塊から立ち上がる「ヴァルトシュタイン」には興奮を禁じ得ない。鍵盤を叩けば産業革命の音がする!(CDジャーナル)



大賞の賞状とトロフィ



LMCD-1960

演奏:小倉貴久子

使用楽器:J.ブロードウッド&サン 1802年頃 ロンドン

収録曲:ソナタ 変ロ長調 作品23 (J.L.デュセック) / イギリス・ソナタ 八長調 Hob. X/VI:50 (ハイドン) / ソナタ 変ホ長調 作品1-1 (J.フィールド) / ソナタ 短調 作品40-2 (M.クレメンティ) / ソナタ 八長調 作品53「ヴァルトシュタイン」(L.v.ペートーヴェン)

42 リードオルガンに夢をのせて

浜松の楽器産業の原点である足踏み式リードオルガンで、19世紀のアメリカと、キリスト教と、日本の西洋音楽黎明期を味わう。

■エスティ社のオルガンは、かつて栄華を極めたオルガンだけあって、その洗練された透明感の有る音色は今も衰える事無く響いています。恐らくパイプオルガンをイメージしたリードオルガンなのでしょう。低音部はパイプオルガンのキーボードにあたる16フートの様な太くずっしりとした音が出ます。しかしながら高音部は対照的にソプラノサクスの様な甘くしっとりとした音色です。…他方、日本楽器製オルガンはひとつひとつの音が明瞭で、その懐かしやかな音色はかつての古き日本の小学校に思いを馳せさせてくれます。こちらのオルガンには力強く響くストップはありませんが、それ故に日本歌曲にはよく合いました。そして今回一緒に録音して下さった鈴木重子さんの優しく寄り添うように囁かれる歌声は、リードオルガンの音色と絶妙に融け合い、えも言われぬ美しいサウンドを生むことになったのです。(鈴木開ライナーノート)

■小学校の音楽室にある、足踏み式のリードオルガン。誰もが共通して、思い入れのある楽器のひとつだろう。そのルーツでもある、19世紀アメリカと大正期日本のリードオルガンの音色が詰まった1枚。讃美歌や唱歌、各国民謡からの選曲は必ず聴いた経験のある旋律ばかりで、懐かしく思いに捉われる。その一方で、繊細なペダル操作によって得られる、微妙なダイナミクスの変化や自然なフレーズなど、随所で発揮される高い表現力には驚かされるはず。先人観を覆す鈴木開の好演に加え、時折り挿入される、鈴木重子のしっとりとしたヴォーカルも好ましい。一聴の価値がある。(ぶらあば)

演奏：鈴木開(リードオルガン) 鈴木重子(ヴォーカル)

使用楽器：日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社) 大正時代 浜松／エスティ社 1891年 プラトルボロ(アメリカ)

収録曲：愛の挨拶(E.エルガー)／リードオルガンのための「フォスターの夢」(小塚憲二)／スワンシー(H.フォスター)／ホーム・スイート・ホーム(H.ビショップ)／アニー・ローリー(スコットランド民謡)／サムワントゥー・ウォッチ・オーヴァー・ミー(G.ガーシュウィン)／練習曲48番(島崎赤太郎)／荒月の月(瀧廉太郎)／前奏曲 嬰ハ短調(A.ボード)／子供の讃美歌(G.ウェッブ)／浜辺の歌(成田為三)／からたちの花(山田耕筰)／故郷(文部省唱歌)／仰げば尊し(文部省唱歌)／後奏曲 二長調(A.ラインハルト)／ああベツレヘムよ(讃美歌)／天なる神には(讃美歌)／神の御子は今宵しも(讃美歌)／アメジツグ・グレイス(讃美歌)／きよこの夜(F.グルーバー)



LMCD-1968

45 ベートーヴェン チェロとクラヴィアのための作品全集Ⅰ ~1810年のワルターとともに~

■昨年夏(2012年7、8月)のこと、花崎薫のチェロと小倉貴久子のピアノでベートーヴェンのチェロ作品全曲をとりあげる演奏会があるということで浜松まで駆けつけた。モダン・スタイルの演奏では窺い知ることのできないベートーヴェン音楽の微細に触れ、ヒストリカル楽器が醸し出す繊細な響きに酔いしれた。そのときの感動を鮮やかに蘇らせてくれるCDができあがった。(平野昭ライナーノート)

■名手・小倉は、特にチェロとのバランスを熟慮。2月に大阪フィルのトップに就任したチェロの名匠・花崎も、エンドピン不使用にガット弦で臨み、ヴィブラート奏法やフレーズなど時代特有の語法に気遣いを見せる。その結果、2つの楽器が、時にひとつの楽器に聞こえるほどの一体感を創出。これらの作品が本来持つ、繊細で艶のような魅力が露わとなった。(ぶらあば)

■(ワルター・ピアノの)素直で透明感の高い響き、美しい音色に惹かれるが、何よりも複雑なメカニカル・ノイズを感じられないことが、楽器の修復と維持管理のクオリティの高さを証明している。…誤魔化しきれないトランスペラントな世界で、小倉と花崎のふたりが奏でるベートーヴェンは至福の時を提示してくれる。(CDジャーナル)

■どの曲の場合にもフォルテピアノの音色が美しく、響きが澄んでいながら金属的でない。一つ一つの音色の変化が細かく感じられるのも特長であろう。特に中音域での表情の多彩な変化は魅力的で、モダンピアノでは望めない特色と言える。(レコード芸術)

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 花崎薫(チェロ)

使用楽器：フォルテピアノ A.ワルター&サン 1810年 ウィーン／チェロ パオロ・アントニオ・テストーレ 1760年 頃 ミラノ(奏者蔵)

収録曲：チェロとクラヴィアのためのソナタ 第1番 へ長調 作品5-1 / チェロとクラヴィアのためのソナタ 第2番 短調 作品5-2 / ヘンデルのオトリオ(ユダス・マカベウス)の主題によるクラヴィアとチェロのための12の変奏曲 長調 作品番号45 / モーツァルトのオペラ《魔笛》の主題(娘っ子でも女房でも)によるクラヴィアとチェロのための12の変奏曲 へ長調 作品66 / モーツァルトのオペラ《魔笛》から〈恋を知る殿方には〉によるクラヴィアとチェロのための7つの変奏曲 変ホ長調 作品番号46 / クラヴィアとホルンのためのソナタ へ長調 作品17【チェロ編曲版】



LMCD-1973,1974(2枚組)

43 悠久のペルシャ、雅なるサントゥール

コレクションシリーズ・アジア編の第1弾。奈良時代からシルクロードで結ばれているイランと日本。正倉院に受け継がれるペルシャ伝統工芸品と同じように、音楽もまた日本の音楽芸能に遺伝子を残している。遙か彼方、異国の音楽でありながら、日本人にはどこか懐かしく響く。サントゥールは紀元前1600年頃から祖形が見られるペルシャの伝統楽器。日本に長く住み、数々の文化交流に携わってきたプーリー・アナビアン氏とその仲間による第一線の演奏である。サントゥールほか、セタール、タール、トンバク、歌も収録。

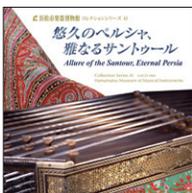
演奏：プーリー・アナビアン(サントゥール) 河村真衣(バス・サントゥール) 谷正人(サントゥール)

使用楽器：イラン(トンバク、ドホル、ダーイ・ザンギ、シンバル、フィンガー・シンバル、ワイングラス) パーラム・サーランギ(歌) フシャング・ザリフ(タール) フェレイドゥーン・フアラハニ(セタール)

バーマン・ラジャビ(トンバク)

使用楽器：サントゥール 1995年頃 イラン ほか

収録曲：祖国イランへ／モラーナー／ファームス／サラブ／テイラン／ファリパー／ラジャビ／ジュニジュニ／サーギーナーメ



LMCD-1969

46 ベートーヴェン チェロとクラヴィアのための作品全集Ⅱ ~1810年のワルターとともに~

■二人は情熱の魂だ。怒涛の押し。魂の歌。が、暑苦しくない。強い表現意欲をベートーベン時代の楽器の優しい響きが包む。そこに神が降りる。調和が生まれる。(朝日新聞)

■小倉と花崎は時代特有の語法に気遣いを見せる一方、第1弾よりも、より、「ベートーヴェンらしさ」を強調したダイナミックな演奏を心がけているよう。そして、時にピアノのアクションや弓がもたらすノイズすら、音楽の内側へと探り込んでいく。(ぶらあば)

演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 花崎薫(チェロ)

使用楽器：フォルテピアノ A.ワルター&サン 1810年 ウィーン／チェロ パオロ・アントニオ・テストーレ 1760年 頃 ミラノ(奏者蔵)

収録曲：チェロとクラヴィアのためのソナタ 第3番 へ長調 作品69 / チェロとクラヴィアのためのソナタ 第4番 へ長調 作品102-1 / チェロとクラヴィアのためのソナタ 第5番 二長調 作品102-2



LMCD-1975

44 ジャワ・ガムラン ~インドネシア中部ジャワ 青銅打楽器の輝き~

アジア編第2弾はインドネシア・ジャワ島のガムラン。今やジャワ島の民族音楽を超越して世界に広まっているガムランの、親しみやすい楽曲と各楽器個別の音を収録し詳細な解説もつけた。ジャワから日本へ、そして日本からジャワへ、世界へと新たな価値を発信する絶好の入門アルバム。

■ランバンサリは、1985年に東京芸術大学の卒業生等によって設立されて以来、長いキャリアを通じて、恵まれた才能を生かし、ガムランへの愛情と努力を惜しまずに活動を続けてきました。その結果、ジャワの平均的なガムラン・グループと肩を並べるレベルに達するまでに至りました。彼らが演奏しているところを見ないで音だけを聴くと、その演奏者を言い当てるのはむずかしい、ジャワ人が演奏しているのかと思ってしまうほどです。このCDが、それを証明しています。ランバンサリの選曲や演奏の解釈によって出来上がったこのCDは、ジャワ・ガムランの音楽的財産の豊かさを十分に表現しています。ランバンサリが成しとげた功績に対して、心から祝福を贈ります。異文化交流に貢献するランバンサリや他のグループは、民族や国を越えた友好と敬意の“種子”を撒いた努力に対して、高い評価を得るにふさわしい存在と言えます。このような活動が、世界の平安への道を開くための、良き手段となることを願いつつ…。(ラハユ・スパンガ／インドネシア芸術大学スカルタ校教授)

演奏：ランバンサリ

収録曲：ラグ／マニヤル・セウ(ペログ音階&スレンドロ音階)／キナンティ／ロンド・マラム／カンデ／スウォロ／スリン／コド・コレ／ムガトロ／タル／さくらさくら〜こきりこ節〜ていんさくめ花／各楽器個別の音



LMCD-1972

47 C.P.E.バッハ フルート・ソナタ集 ~クヴァンツ・フルートによる~

世界の至宝、フライヤー・クヴァンツ・フルートによる第3作。2014年に生誕300年を迎える「多感様式」の代表的作曲家カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ。プロイセン王国のフリードリヒ大王に仕え、時代の最先端を走っていた作曲家の、フルート作品の絶品の数々を集め、クヴァンツ・フルートの独特の音感と音の明暗が遺憾なく発揮された魅力のアルバム。

■大バッハの次男の音楽を、作曲家ゆかりのクヴァンツ・フルートで演奏。バロックの一般的フルートより微妙な音程が出る。音色も豊か。その性能が全開。有田の妙技だ。多情多感。表情無限。(朝日新聞)

演奏：有田正広(フルート) 有田千代子(チェンバロ)

使用楽器：2キー・フルート C.F.フライヤー1世 1763年以降 ベルリン / 2キー・フルート 前記フルートを基に 杉原広一、有田正広によって復元製作 2010年 東京(奏者蔵) / チェンバロ フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世 1765年 パリ

収録曲：ソナタ 長調 Wq.123 / ソナタ 短調 Wq.124 / ソナタ 変ロ長調 Wq.125 / ソナタ 二長調 Wq.126 / ソナタ 長調 Wq.127 / ソナタ 短調 Wq.128 / ソナタ 二長調 Wq.131 / ソナタ 長調 Wq.134



LMCD-1976

楽器博物館DVD (文部科学省選定作品)

※価格は2013年9月現在のものです

—楽器博物館レクチャーコンサートのライブ映像を中心に世界の楽器を紹介します。—

楽器の世界

第1巻
「ブランシェのチェンバロ」
演奏：中野振一郎
税込3,150円

第2巻
「プレイエルのピアノ」
演奏：小倉貴久子 ほか
税込3,150円

第3巻
「津軽三味線」
演奏：多田あつし ほか
税込2,520円

第4巻
「長唄三味線」
演奏：伝の会 (村屋邦寿・松永鉄九郎)
税込2,520円

世界に例を見ないCDコレクション 博物館所蔵楽器による名演奏

浜松市楽器博物館が所蔵楽器の質と点数において世界の楽器博物館の十指に入るほど充実していることは、ここを訪れた音楽家や音楽学者ならば誰もが認めるところである。しかし、この楽器博物館が傑出しているのは所蔵楽器の多くが本格的な演奏に使われるということである。

驚くべきことだが、浜松市楽器博物館CDシリーズはすでに40点を超えている。しかも演奏は世界的に活躍する気鋭の名手が顔を並べている。チェンバロには中野振一郎、フルート(トラヴェルソ)には有田正広、オーボエには本間正史、そしてフォルテピアノには小倉貴久子等々。

一般的にヨーロッパの楽器博物館などでも「音のサンプル」あるいは「展示楽器のデモンストレーション」といったカタログ的CDが準備されていることもあるが、浜松市楽器博物館のCDシリーズは古楽器演奏あるいは歴史的演奏様式による本格的コンサートの録音として、例えば、『レコード芸術』誌などでも取り上げられ、しばしば推薦盤あるいは特選盤として高い評価を得ているのだ。

その延長線上の快挙として、小倉貴久子が演奏したシリーズ38の「イギリス・ソナタ〜ブロードウッド・ピアノ〜新世紀の響き」が平成24年度の文化庁芸術祭レコード部門大賞を獲得したのである。

楽器の町・浜松は世界に誇る鍵盤楽器の町でもある。このCDシリーズでもクラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノ、リードオルガンといった鍵盤楽器が大勢を占めているが、どの一点を取り上げても響きの豊かさ、音色の美しさ、そして演奏者の息遣いや表情まで髣髴させる情感に満ちた名演に心打たれるものとなっている。

浜松市楽器博物館のさまざまなコンサートやワークショップ、そしてレクチャーはシニアフォニーホールでは決して得ることのできない音楽の醍醐味や神秘を味わわせてくれる。そうした感動を追体験させてくれるCDシリーズは浜松が発信する最高の贈り物でもある。



平野 昭 / 慶應義塾大学教授・音楽学

浜 松の楽器博物館には素晴らしいチェンバロが揃っています。特に名器ブランシェは世界的にも貴重なコレクションです。本来、鍵盤楽器はどちらかと云えば消耗品的な性格の強い楽器。これらが今なお元気に浜松で生き続けているのです。奇跡とも云えましょう。とはいえ、いずれは演奏できない状態になるかもしれません。残念ながら生き物には寿命がありますから。我々には、年老いた名器たちの威力を歴史に残す義務があります。古いチェンバロの真の魅力を現代に伝えるこれらの企画に参加できたこと、私は誇りに思っています。



中野振一郎(チェンバロ)

色 々なピアノでバラエティ豊かな楽しいCDを作りますか?とお話をいただき収録したのが「フォルテピアノ」。計6台のピアノを使い閉館後の展示室で、教夜にわたる収録の日々。個性豊かな楽器たちから多くのインスピレーションを受け、興奮と幸せを感じながら…。その後次々と魅力的なピアノによる録音を行い、今まで計21のアルバムに関わらせて頂きました。その全てのアルバムに深い思い入れがあり、このような経験はピアニストとして感無量です。そして「イギリス・ソナタ」文化庁芸術祭レコード部門大賞受賞は、夢のような出来事でした。



小倉貴久子(フォルテピアノ)

芸 術を、フルートを、こよなく愛したプロイセン王国フリードリヒ大王。その大王ゆかりの世界的に貴重なフルートが、日本の浜松にあるということ自体すでに誇るべきことなのですが、浜松市楽器博物館は、フルートを実際に演奏して録音を社会に残すという、ヨーロッパでもなかなかできないプロジェクトに時間をかけて挑み、見事な成果を残しました。私もそのお手伝いのできたことを非常に嬉しく光栄に思います。現代のフルートとその奏法が失ってしまった音色の陰影と音楽の語り口を、改めて世の中に紹介することは、音楽に関わる博物館として世界に誇るべき活動だと思います。楽器に敬意を払いながら、誠実に、音と音楽の記録を残すというプロジェクトが、これからも続いていくことを願っています。



有田正広(フルート)

コ レクションシリーズにガムランで参加させていただき、大変光栄です。博物館に展示されている楽器は、外観の美しさに加え音もきちんと調律されていることに驚かされます。青銅打楽器の豊かな音色が録音スタジオいっばいに響きわたっていたのを昨日のこのように思い出します。CDではガムランの多彩な魅力を知っていただきたく様々なジャンルの曲を選曲したほか、一つ一つの楽器の音も個別に収録しました。このようなオリジナルティーあふれる世界各国の楽器をテーマにしたコレクションシリーズが、今後さらに続いていくことを願っています。

ランバンサリ代表 木村佳代(ガムラン)

地 無し尺八の名器を演奏した本コレクションシリーズ3部作は、8年の歳月をかけて完成しました。博物館的な研究教育、そして社会への貢献を念頭に置いたこのプロジェクトに関われたことを、光栄に思います。これらの尺八は、江戸から明治の「音の匠」によって極められた、今日とは異なる特徴をもった楽器ですが、なぜか21世紀にその魅力が再評価されつつあります。ただ、その音の真価は通常の録音では聴くことができません。そこで、私はこれらの録音に、CDからの音でも分ってもらえるような幾つかの仕掛けをしました。そして、普及尺八の伝統における「華麗なる過去の遺産」「現在の伝承:三虚壺」「未来へ祈り」をテーマに、これまでの研究成果を解説したためました。生演奏の機会にお越しいただけることを願って。

志村 哲(尺八)

私 がリードオルガンを耳にしていたのは小学校に入学してからの4年間だったように思います。その頃テレビでは「宇宙船艦ヤマト」が放送されており担任の先生が私達のリクエストに応えその難曲を和音だけで弾いてくださいました。当時各教室にリードオルガンが設置されていたので休み時間の度にオルガンを囲んで皆で歌っていたのは私にとって懐かしい思い出です。残念ながらその後リードオルガンは徐々に姿を消していきましたが、近年、リードオルガンの繊細な表現能力に魅了され研究された諸先輩方のご尽力により、再び光が当てられ、日本リードオルガン協会も設立されました。この度の録音で用いましたエステー社製と日本楽器製のオルガンの豊かな響き、鈴木重子さんのヴォーカルとの得も言われぬ美しいアンサンブル、それは私にとっても幸せな時間でした。

鈴木 開(リードオルガン)

Message



館長 嶋和彦

浜松市楽器博物館は、日本初の公立楽器博物館として平成7年(1995年)4月に開館しました。以来19年、常設展、特別展などの展示はもとより、レクチャーコンサートやイブニングサロン、講座、ワークショップ、移動博物館、所蔵楽器によるCDやDVDの制作、楽器の修復、国内外の音楽文化の調査取材など、楽器と音楽を軸にした多種多様な活動を通して、世界の人々の美意識や価値観、くらしなどを紹介してきました。

浜松市は楽器製造産業では世界の中心のひとつで、音楽愛好家も大変多く、今も音楽の都をめざ

して官民一体となって活動をしています。楽器博物館は、世界の楽器と音楽を平等に扱うという世界に誇るコンセプトのもと、老若男女が楽しく過ごせる生涯学習の場として、また観光施設として、国内外から高い評価をいただくまでになりました。今や世界第一級の楽器博物館に数えられ、音楽家や音楽を愛する人々の集いの場ともなっています。

当初は、音のサンプル、カタログとして制作した所蔵楽器のCDですが、それでは楽器の素晴らしさ、音楽の素晴らしさが伝えられないと判断し、一流の音楽家による一流の演奏で再スタートしたのが

2004年でした。第3巻のチェンバロから始まり、いつの間にか47巻に達しました。各方面から評価していただき、文化庁芸術祭の大賞までいただきました。ひとえに演奏家、研究者の深いご理解とご支援の賜で、心から感謝申し上げます。

博物館の使命は、単なる物の陳列ではなくて、文化の伝承です。文化遺産である古物に魂を入れることです。そしてその魂は現代に生きる私たちの心に届き、私たちは人間としてのエネルギーを得ることができるのです。これらのCDがその一翼を担うことができれば、これに勝る喜びはありません。

HAMAMATSU MUSEUM OF MUSICAL INSTRUMENTS 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 E-mail wakuwaku@gakkihaku.jp URL http://www.gakkihaku.jp

■開館時間 / 9:30 ~ 17:00 ■入館料 / 大人400円、高校生200円、

中学生以下・70歳以上・障害者 無料 ■休館日 / 毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日、8月は無休)、12/29~1/3、施設点検日、その他臨時休館日 ■アクセス / JR浜松駅北口より東へ徒歩10分、東名浜松I.C.・浜松西I.C.・新東名浜松I.C.より車で30分、浜名湖・館山寺より車で40分 ■駐車場 / アクトシティ地下駐車場、市営駅北駐車場、その他民間駐車場

